

研究・調査報告書

報告書番号	担当
262	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Patterns of Wine Drinking in the USA and Europe: Implications for Health アメリカおよびヨーロッパにおけるワイン摂取パターン：健康への影響	
執筆者	
TREVISAN Maurizio, DORN Joan, HOVEY Kathy, CHIODINI Paolo, GRIONI Sara, KROGH Vittorio, PANICO Salvatore	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Wine Res, Vol.22, No.2, Page.109-112 (2011.07)	
キーワード	
アメリカ、ヨーロッパ、ワイン、健康	
要旨	
<p>WHOによると世界でビールがもっとも多量に消費されており、これにスピリッツとワインが次ぐ。しかしながら、アルコール飲料の消費形態（例えば摂取量、飲酒様式、よく飲酒するアルコール飲料など）は経済、社会、宗教、伝統、流行の影響によって、世界のあらゆる地域で異なる。この報告では、イタリアとアメリカを例にとって、アルコール飲料の消費形態の比較を行った。イタリアは世界でもトップのワイン生産及び消費国であるが、アメリカではビールとスピリッツがより消費される。イタリアではワインは食事とともに摂取される例が多く、これは米国との大きな違いである。個人や集団でアルコール飲料の健康への影響を理解する場合、これらのアルコール飲料の消費形態の違いをよく理解しておく必要がある。しかしながら、これらの違いがあるにも関わらず、飲酒の健康影響（血圧や心血管系への影響など）に関しては顕著な一致が見られる。これは飲酒パターンと健康影響の関連は事実であり、社会的及び文化的交絡因子の影響ではないことを示す。</p>	